

introduction

人生 100 年時代を迎え、手の変形性関節症に悩む患者さんが増加の一途を辿っていると外来診療で実感します。同時に高齢者の活動性も高まっていることから、痛みを感じながら生活する期間も長期化することになり、二重に苦しむことになります。また、大規模住民コホート ROAD (Research on Osteoarthritis/osteoporosis Against Disability) スタディで示されたとおり、手の変形性関節症の有病率は非常に高く、日本において数千万人の患者さんが存在することになります。

しかしながら、近くの先生には「老化だからどうしようもない」、「治療法はない」、「諦めるしかない」と言われたという患者さんの落胆した声をいまだによく耳にします。下肢と違って手の関節痛が軽んじられる傾向があるのも一因かもしれません。

一方、手外科の領域ではそのような患者さんの急増を背景にして Heberden 結節、Bouchard 結節に対しても積極的に治療を行うようになってきていると感じています。そのような状況をご専門の異なる先生方にも共有いただきたいと思います。また変形性関節症において「手」にフォーカスした書籍が今までなかったことから、本号では Heberden 結節、Bouchard 結節を含めて、手の変形性関節症に対する手術療法をアップデートしていただくことを目的に企画編集しました。経験豊富な先生方にご執筆いただき、非常にわかりやすい内容となっております。

ご自身の手術、もしくは専門医へのご紹介の際の参考にお役立ていただけましたら幸いです。本号が手の関節痛に悩む患者さんを減らす一助になることを切に願っております。

流山中央病院
國吉一樹